

無題

大塚 隆

・1回生の時、渡辺教授の人文地理学を受講した。ダンディーなルックスでダブルの背広がよく似合った。当時学生服だった私は将来背広はダブルとこの時決めていた。学年の終りに神戸東部へエクスカーションがあった。

・2回生の時自然地理学で若き日のあの梅棹先生の授業を受けた。気さくできまり悪そうな喋り方だった。

・地理学教室の一員となる。大学院生から学部学生まで何かいうと家族的で何時も一緒だった。地理学の授業はタコ足大学を絵にかいたように、明治学舎だった。専攻生が少ない地理学は、先生方7名に対して学生は2~4名だった。明治学舎には先生用の出席札があったが、我々もその裏側に名札を付けていた。守衛のおじさんもニヤニヤ笑っていたものだ。

夏休みに富山県の砺波平野の野外調査があった。川喜田助教授が大きな西瓜を差し入れて下さった。ところが砺波の宿で毎日鮎がでて、旅館の人に違うものをと頼んでいたため、折角楽しみにしておられた川喜田先生には悪いことをしたと思っている。調査中、当時まだ珍しかったテープレコーダーで村人と接している時、声を聞かせて上げるとずいぶん喜ばれたものだった。

・4回生になって杉本町学舎が進駐軍から返還され、授業もそこに変わった。夏にオーストラリアのパスに住むエリザベスという学生が村松教授を頼ってきた。宿泊は湊町で旅館を経営されていた杉本さんのところと決まったが、風呂に入ると湯船でシャンプーを使い、シャワーがないといって杉本さんは大変困られた。日本に来れば日本流にと宥めた。英会話を少々していたこともあって、村松教授と御一緒に東大寺の管長宅にとめてもらい、同じ蚊帳の中で就寝した。道頓堀の鰻屋へ行ったりもした。彼女は数日の滞在後、船でフィリピンへ向かった。実に楽しかった。夏休みに西宮市の実態調査が行われ、宿泊をしながら先輩たちと何日間かを過ごした。

卒論発表会のこと いろんな難しい質問が例年出ると噂されていた。私はよーしと思った。発表内容を全て英語でしたものだ。お陰で質問もなく無事終わった。先輩諸氏は変な奴がいるなあと思われたことだろう。

・大学院は杉本町学舎の木造の建物であった。故人の前田さん、高木さん、宮井さんなどと御一緒だった。

この年に日本でしかも天理市で世界地理学会が開催された。学会には出たいが費用が大変と考えていた時、学会のお手伝いをしてくれと村松教授からいわれ、喜んでお手伝いすることにした。先ずは外国の教授が奥様同伴なので、その面倒を見ろということで、大学の車で滞在中の奈良ホテルへ行き、薬師寺へ御案内した。仏教の予備知識のない私にとって、住職の仏教の話を英語に訳すのに苦労したものだ。中国研究の大家で当時学会の副会長だったCressyに一度話をする機会が欲しいと頼んだ時、先日奈良でお世話した同伴の奥様が口添えくださり、宿泊中の京都の都ホテルへ来るようにいわ



れた。そして2時間ほど地理学に関するアドバイスを受けた。その日の午後は故人の池野さんと京都大丸へ行き浴衣や帯、扇子などの買い物につきあった。

ノルウエーのベルゲン商科大学からセンム教授が大学にこられ授業もされた。団地を見せて、「これが日本の家だ」と言うと、「違う」と言い出し、風呂屋を見せたりして、「これこそ日本だ」と言わせた。ノルウエーの教科書は全部この人の作だそう。先述のCressy教授もセンム教授もぜひわが国へ来た時には家に来るよう言われたが、いまだに実現していない。

私が在学した学部及び大学院時代の寸描である。故人の御冥福をお祈りすると同時に古い時代の出来事を気の向くまま綴ったことをお許し願いたい。恩師に感謝するとともに、市立大50周年をお祝いします。

(昭和32年卒業・昭和36年修了)